



第3回復興支援ボランティア  
参加者の声(アンケートより)  
期間: 2011年8月4日~8月10日  
参加者数: 29名

今回の活動に参加した感想をお書きください
5ヶ月も経ちましたが、そのままの状態に残っているところが多くあり、津波の規模、恐ろしさを改めて実感しました。住宅の片付けは、大変でしたが、一軒一軒にそれぞれ生活があったんだなと思うと、何とも言えない悲しい気持ちになりました。このボランティアで学んだことは、“被災者の立場に立って行動する事”“みんなで協力すれば、大きな力になる”という事です。
友達と同じように自分も何かしたいという些細な気持ちから始まりました。初めは、やってやるという気持ちと自分に何が出来るのかという気持ちで、迷いとかありました。でも、30人近くの仲間と一緒にやれたことは、とても励みになったし、心の支えにもなりました。
活動においては瓦礫の撤去をさせていただいた時に、結婚式の写真などさまざまな生活の品々を発見してここに確実に生活が存在していたことを思い知らされた。このことは、実際、テレビや新聞で報道されることだけでは実感しにくかったですが、いざ活動してみて、そういったことを目の当たりにすると、もし自分の家がこういったことになっていると想像しただけで、悲しい気持ちになりました。なので、私たちは今できることをずっと日本人として共にしていかなければいけないと感じた。
活動の参加前と後で、随分変わりました。特に、心に残ったのは、家主の方が居る前で作業を行い、「踏ん切りがつかしました」という言葉が未だに忘れられません。他人事のように、初日、2日目と活動してしまい、物一つ一つに、被災者の方の気持ちを考えずに作業していたことに、気付かされました。私は今まで何もして来ず、何をしていたのだろうと改めて考えさせられました。
作業の中で、自身がつらいはずの被災者の方々がボランティアの学生達よりも気丈に振舞っていらっやって、その事が非常に印象的でした。
直接目で見ることの大切さ 人と人の繋がり大切さ ボランティアから様々な出会いが生まれる 思いつめてばかりでも、人の心はもたないと思いました。文章ではまとめきれませんが、この活動を通して、より人助けの仕事、消防士への夢が強まりました。
現地の人達に「ありがとう」など感謝の声をいただく機会もあり、やってよかったな、来て良かったな、と今では感じています。今回の体験の中で、僕なりに考えさせられることが多々あったので、これを地元を持って帰り、友人や家族に話した上で、今回の震災についてももう一度考えたいと思います。
学んだこととして、被災者の立場に立って考える 作業の効率・安全化を図るために声を出すこと、流れ作業の重要性などチームワークの大切さ 無理をしない、です。東日本が活気溢れる姿に戻るまでは何十年と長い年月がかかります。それをお手伝いさせていただくのが私たち学生や他のボランティアチームだと実感しました。ボランティア初日と最終日には気持ちの変化が大きいです。初日はボランティアするにあたり、意気揚々としていましたが、ボランティアに挑むにつれて、被災者側の気持ちを感じて行動しようといった考えに変わりました。
「こんな状態にしたのは海ですが、また海に戻りますか(漁師の方なので)」という質問に対して、地元の猟師の方が「おらたちには海しかねえ、生きるためには、海に出るしかないっぺ」とおっしゃた言葉がとても印象に残りました。何の言葉にも代えられない気持ちになりました。
被災された方に逆に元気をもらったり、励まされたり、荷物運びで僕達が運ばせていただいたモノの一つ一つが家主の方にとったら、生活を共にしてきた思い入れのあるモノであると感じた時、こみ上げるものもありました。この経験や状況を周りの方に伝え、呼びかけて、まずは知ってもらえることも僕の継続して行えるボランティアの第一歩ではないかと考えています。
人を思いやる難しさ、地域間の復旧スピードの差など普段の生活では知ったり、学べない事が多くありました。今回の経験を多くの人に話し、被災地の現状を伝えていきたいです。

**今後も何らかの復興支援に関する活動を続けたい理由はなんですか？**

崩壊した家の家主の方と接する機会も何度かありました。作業前と作業後の表情が全く違うことに驚きました。確かに、笑顔でありがとう、と言っていたとき、大変嬉しかったのですが、それと同時に、それほど苦しんでいたのだと実感するきっかけにもなりました。まだまだ多くの人々がそのような状態にあると考えると、もっと行動し、貢献したいと強い思いが出てきます。

被災地の現状を見たり、聞いたりして、まだまだ復興まで時間がかかると思ったし、ボランティアの方や地元の方が良い人ばかりで、もう一度会いたかったです。

今回、参加させていただいて、学ぶことが多かったからです。それは、何事にも感謝をしなければいけないことです。瓦礫の撤去をしている時に、赤本や会社で使うために勉強したであろう本がたくさん見つかりました。努力してきたことが一瞬で消えてしまう震災の怖さと努力すれば報われるというありがたさを学んだ。なので、また活動させていただきたいです。

今回の活動を通して、自分に出来ること、しなければならない事を周りの人にも伝えていかないといけないと思ったから。

今回の活動で、他の人が一生懸命作業しており、被災地の方も、とても前向きでいる姿勢、そして現地の状況を見て、行きたいと思いました。

被災地の状況は刻々と進展していっています。活動の内容は、変わってきますが、被災された方々のお話を聞くことや、まだ人手が足りないことを積極的に参加していきたいです。

今回のボランティアに参加することで、ボランティアにも色々なやり方があるのだと感じました。今回は、一週間でしたが、僕としてはまだやり足りない気持ちなので、この気持ちを地元で温め直して、様々な形で今後もボランティアにたずさわりたいと思います。

今回、色々な方のお話を聞く中で、言葉には表さないが、震災で受けたショックが垣間見えたと思います。その人達の笑顔が一日でも早く取り戻すことができればいいなと思ったから。

実際に参加してみて、地域によって復興の程度に差があると肌で感じ、まだまだお手伝いできることがあると思ったから。

実際に活動してみて、人手が足りない所は、本当に足りていないと感じましたし、自分の目で確認したことで、より一層その思いが強くなりました。人と人のつながりが、人を強くしてくれると学ばせていただいたので、何らかの形で関与させていただきたいです。

まだまだ復興への道のりは遠いことを実感したので、積極的に東北の人達のために自分の出来る事をしていきたい。

**どういった活動をしたいと考えていますか？**

僕は、よさこいをやっているのでも、踊りの力で元気づけたいです。9月の17、18日に大阪で行われるこいや祭りや、仙台のよさこい祭りの踊りを会場全員で踊ろうという企画をしています。

次は、子どもと関わったり、地元住民と関われる活動をしたい。

被災者との交流をし、話を伺ってみたいです。もし力になれるのであれば、なってみたくです。

被災者の方々は胸の内に秘めた辛い震災の記憶を背負い、誰かに話すことも出来ず、日々の苦しい生活を強いられていると思います。そのつかえを人に話すことで少しでも和らげることが出来ればなと思います。

地元で今回体験した中で、得ることが出来たことを広め、人々の中に復興支援の輪を広げたいと思います。

長い目で考えると二度と同じ事を引き起こさないために後世にこの事象を伝えていかなければならないと思います。そういうことをする際のお手伝いが出来ればいいなとも考えています。

願わくば、もう一度牡鹿にボランティアに来たいです。

新たな住居の近所におけるコミュニティ作りなど、コミュニティ作りのお手伝いをさせていただき、どのようにゼロからのコミュニティが形成していくのかを個人的に学びたい。

被災された、いわゆる“社会的弱者”の方々に対する余暇支援のようなものがあれば、

アルバムなどの写真の修復作業。